

	水防災対策の内容	概ね5年以内の取組	フォローアップ
<p>(1) 気候変動を考慮した治水対策</p>	<p>気候変動の影響を予測し、治水対策を構築</p> <p>【気候変動の影響予測】</p> <p>【リスク評価と社会的共有】</p> <p>【リスクに対する対策の構築】</p> <p>【将来的に気候変動に迅速に対応できる対策】</p>	<p>※十勝川等のモデル河川から順次検討し、全道へ展開 ※時間軸を意識しながら、対策を担う主体の役割分担を明確にしながら進める</p> <p>○最新の知見をもとに、流域レベルへのダウンスケールにより将来の降雨量や洪水流量を予測</p> <p>○リスク評価方法の検討（※予測の変動幅を考慮） ○将来の治水安全度の低下、被害想定等の算出 ○将来のリスクを具体的に数値やマップ等で示し、社会的に共有</p> <p>○諸外国の適応策の事例の収集や課題の整理 ○治水計画やリスク管理の目標の設定 ○リスクに対するハード・ソフト対策の構築：（2）参照 ○リスクの最小化などの観点を踏まえた最適な治水計画</p> <p>○外力の増大に早期に対応できる柔軟な施設改良や設計等について、諸外国の事例の収集や課題の整理、モデル事例で検討</p>	<p>・予測技術の進展等を踏まえて検証</p> <p>・リスク評価方法の検証 ・リスク情報の検証</p> <p>・適応策の状況、技術的知見、社会・経済状況等を踏まえて検証</p> <p>・実施状況、技術的知見等を踏まえて検証</p>
<p>(2) ハード対策とソフト対策の総動員</p>	<p>施設整備を行うとともに、施設能力を超える洪水を前提とした対策の構築</p> <p>〔施設の整備〕</p> <p>〔避難の強化〕</p> <p>〔災害リスクを考慮した土地利用に関する取組〕</p> <p>〔土地利用と一体となった氾濫抑制等の対策〕</p> <p>〔危機管理型の施設整備〕</p> <p>【減災工法の技術開発】 【構造物の安全性の確認】</p>	<p>※ハード・ソフト対策の検討、順次対策を実施 ※減災対策協議会等の場を活用しつつ議論</p> <p>○引き続き施設整備の着実な推進 ○リスク評価をもとに既存施設再開発や新規施設の可能性検討・整備</p> <p>○避難の強化に向けた方策の検討・実施（具体には（3）参照） ○リスク評価をもとに避難の確実性・困難性を地域と議論しながら避難の強化</p> <p>○リスクの低い地域への土地利用の誘導を目的としたリスク情報の検討 ○リスク評価をもとにリスク情報の提供、他事例などをとりに取組の検討</p> <p>○地域の意向も踏まえながら土地利用と一体となった治水対策の検討・実施</p> <p>○危機管理型の施設整備の検討・実施</p> <p>○堤防決壊時の抑制工などの減災工法の技術開発 ○超過外力時の施設の安全性の評価方法等の検討、モデル事例で検討</p>	<p>・実施状況、効果の検証 ・新たな対策等の検討</p> <p>・実施状況、効果の検証 ・新たな強化方法等の検討</p> <p>・実施状況、効果の検証 ・取組へ向けた検討</p> <p>・実施状況、効果の検証 ・新たな対策等の検討</p> <p>・実施状況、効果の検証 ・新たな対策等の検討</p> <p>・技術開発の状況、技術的知見等を踏まえて検証</p>

	水防災対策の内容	概ね5年以内の取組	フォローアップ
<p>(3) 避難の強化と避難体制の充実</p>	<p>【水防災意識社会再構築の取組の推進】 ※減災対策協議会の取組推進</p> <p>【住民等との水害リスク情報の共有化】</p> <p>【避難施設の整備】</p>	<p>○北海道管理区間で協議会を設置、取組方針作成、ホットライン等の取組 ○地下空間の避難や浸水防止対策を含む大都市部の危機管理体制の強化 ○自治体への支援の充実、技術力向上の取組、経験の蓄積を図る仕組みづくり</p> <p>○より避難行動に直結する災害リスク情報の提供方法の検討・実施 ○水位周知河川の指定の拡大</p> <p>○避難路や避難場所等の施設を、地域の意向も踏まえ、関係機関のもと検討</p>	<p>・実施状況、効果の検証</p> <p>・実施状況、効果の検証</p> <p>・整備状況、効果の検証</p>
<p>(4) 支川や上流部等の治水対策</p>	<p>【水系一貫した治水対策】</p> <p>【支川や上流部等の治水安全度の向上】</p> <p>【土砂等の影響への対策】</p>	<p>○水系一貫した河川整備や河川管理</p> <p>○支川や上流部等の安全度を早期に効率的に向上させる方法を検討・実施 ○今次災害を踏まえて、支川や上流部等の河道計画等への反映方法検討・反映</p> <p>○今次災害の土砂等の影響を調査・分析、災害の防止方策を検討・実施</p>	<p>・実施状況、検証</p> <p>・実施状況、効果、技術的知見、を踏まえて検証</p> <p>・実施状況、効果、技術的知見、を踏まえて検証</p>
<p>(5) 既存施設の評価及び有効活用</p>	<p>【既設ダムの有効活用】</p> <p>【堤防の評価や強化対策】</p> <p>【観測体制の強化・洪水予測精度向上】</p> <p>【河川の適切な管理、河川管理施設の効果の確実な発現】</p>	<p>○ダム再開発、事前放流や操作ルール変更等の可能性の検討・実施</p> <p>○堤防被災箇所の調査・分析等より、堤防管理や堤防強化方法等の検討・実施</p> <p>○高精度レーダー雨量計の整備、CCTVカメラ活用等の観測体制の強化 ○避難勧告等の発令やダム管理等に活用可能な洪水予測技術の開発</p> <p>○河道内樹木等の有効利用促進、砂利採取可能な河川の拡大 ○施設の適切な維持管理・更新、管理水準の持続的な確保 ○樋門等の自動化の推進、地域の協力体制の検討・強化 ○管理水準の持続的な確保、ICT等の技術を用いた管理の高度化</p>	<p>・実施状況、効果の検証</p> <p>・実施状況、効果、技術的知見、を踏まえて検証</p> <p>・実施状況、効果発現、技術的知見の状況を踏まえて検証</p> <p>・実施状況、進捗状況、効果発現状況、技術的知見の状況を踏まえて検証</p>
<p>(6) 許可工作物等への対応</p>	<p>【被災要因分析と対策、防災・減災技術の開発、ソフト対策】</p>	<p>○橋脚などの被災要因を分析、防災・減災対策の技術開発</p> <p>○情報共有や伝達方法等のソフト対策の検討</p>	<p>・実施状況、技術的知見の状況を踏まえて検証</p> <p>・実施状況、検証</p>
<p>(7) 生産空間の保全</p>	<p>【農業に関わる治水対策の適正な評価方法】</p> <p>【農地の利用形態等を考慮した治水対策、農業と河川事業の連携】</p> <p>【河道掘削土等の農業への有効活用】</p>	<p>○農業に関わる治水経済効果の適正な評価方法の検討・方法の導入</p> <p>○地域の意向も踏まえて利用形態等を考慮した治水対策や連携方法検討・実施</p> <p>○河道掘削土・伐採木や流木、堤防除草等の地域の農業への有効利用促進</p>	<p>・実施状況、検証</p> <p>・実施状況、効果の検証</p> <p>・進捗状況、検証</p>